



胡耀邦氏辞任を伝える新聞を食い入るように見詰める北京市民たち(共同)

胡総書記辞任

中嶋嶺雄東京外語大教授は十七日、胡耀邦総書記の辞任について次のように語った。今回の胡耀邦総書記の辞任は端的に言えば、鄧小平体制の内部分裂の露呈だ。

中国はこのところ、鄧主任主導の開放体制にさまざま

ために、胡耀邦氏らが、学生デモを鼓吹し「大いにやれ」と言っていたと思われる。これは胡氏の性格からして大いに有り得ることだ。今回はその責任を取らされたというのが最大の理由だろう。

学生デモが思わぬ政治改

鄧体制の内部分裂

矛盾が出ていた。保守派(私原則派と呼んでいるが)の陳雲政治局常務委員らが、このひすみを追及、かなり力をつけていた。これに対して、今秋の第十三回党大会を目前に改革派が焦りを強めていた。こうした状況を打開する

革、民主化要求に発展、鄧小平主流派指導部、保守派を含めて危機感を深めたのだらう。その責任の取り方を巡って、鄧小平指導部内に分裂が起きたのだらう。

現在、開放政策の主柱となつている鄧小平氏を失脚させ

るわけにはいかない。そんなことをしたら、開放体制がつまりか、鄧小平体制を維持しようというのが、原則派と改革派のギリギリの妥協点だった。



東京外大教授 中嶋 嶺雄

そのため胡耀邦氏を切ることによつて、事態を打開しようというのが、事の本質だろう。今後、一時的に趙紫陽政治局常務委員(首相)が総書記代行を務めるが、問題は、第十三回党大会でだれが退陣を表明している鄧小平氏の後継

者になるのか。鄧氏は後継者と目されていた胡氏を切ったわけだから、全く予断は許せなくなった。鄧氏がいてさえ、この混乱ぶりだ。八十二歳の高齢の鄧氏がいなくなったから、中国はどうなるのか、極めて不安定な政治状況になってきた。

今回の胡氏更迭は、党内手続きを踏んだとはいえ、鄧氏が自らの政治路線維持のために胡氏の首を切ったと見て間違いない。本来中央顧問委主任にすぎない鄧氏が、党最高ポストの総書記の首を切るのはおかしい。これが中国の今の政治の体質なのだ。こうした点は、毛沢東時代から大して変わっていないといえる。

(現代中国学) Ⅱ 談